

介護＝笑顔を地域に広げよう！

アクティブ福祉

第64号

2026年2月発行

社会福祉法人東京都社会福祉協議会
東京都高齢者福祉施設協議会 機関誌



高齢協
ウェブサイト
はこちら♪



東京都高齢者福祉施設協議会
マスコット「アクティブル」

特集

生産性向上の取り組みシリーズ

第3弾 平塚橋特別養護老人ホーム（品川区）

東京ケアリーダーズが行く！うわさの施設 アクティブ福祉 in 東京'25 優秀賞受賞施設

（その41）最後まで経口摂取にこだわり、誤嚥予防に取り組んだ20年
特別養護老人ホーム谷中（台東区）

（その42）“楽しみ”の提供からみるサクセスフル・エイジング
特別養護老人ホーム神明園（羽村市）



三徳会は、1982（昭和57）年に東京都品川区で初となる特別養護老人ホームを開設した社会福祉法人です。以来、40年以上にわたり区内の介護業界をリードし、2016年には法人で一番新しい平塚橋特別養護老人ホームがオープンしました。歴史ある法人内では、どのような手順を経て介護テクノロジーを施設に導入したのでしょうか。

平塚橋特別養護老人ホームは品川区立の特養のため、大きなお金はあまり使えないとのこと。潤沢に資金が使えないなか、施設長・宮崎憲嗣さんと前施設長の富岡豊さんに、ICT機器導入の取り組みについてお話を伺いました。



社会福祉法人三徳会 平塚橋特別養護老人ホーム

施設長 宮崎憲嗣さん・前施設長 富岡 豊さん

〈取材の様子〉

左から平塚橋特別養護老人ホーム

施設長・宮崎憲嗣さんと前施設長・富岡豊さん

2016年に平塚橋特別養護老人ホームが新設されたときの施設長は富岡さん、2025年4月からは宮崎さんが施設長を務めています。

ICT機器を導入するにあたって、当初の困りごとを教えてください。

富岡 平塚橋特別養護老人ホームは、定員100名の全室ユニット型の施設です。当初の困りごとは、一般に生産が終わったPHSを使用したナースコールをいつまでも使っていることでした。世の中が何でもアプリで動くようになってきているのに、ナースコールの担当者は「まだPHSでも使えます」と言っている。また赤外線センサーを使った見守りカメラであるネオスケアを導入すると、そのお知らせはiPhoneに届くため、職員はPHSとiPhoneの2台持ちの時期が約6年続きました。これが職員には不評だったため、手元の機器はiPhoneのみを目指し、2023年によく実現しました。

実際に導入したICT機器にはどのようなものがありますか？

宮崎 主に5つです。1つ目は見守りカメラであるネオスケア、次は体動センサーである安心ひつじα。介護記録や請求ができるCAREKARTEに、CAREKARTEと連動できるインカム付きの介護記録ソフトのハナスト、スマホ型ナースコールの5つです。ネオスケアは23台、安心ひつじαは89台導入して、現在112台になりました。これで112床すべてに導入が完了しました。その他ですと、かかりつけ医とのやり取りをLINE WORKSで行っており、Wi-Fiの強化は品川区の補助金を利用して2025年に行いました。

① 2019～25年導入 ノーリツプレジジョン「Neos + Care ネオスケア」



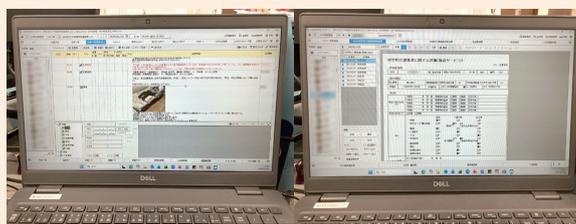
三次元電子マットを用いた精度の高い見守りカメラ。危険動作の予兆を検知し、写真のように居室の状況をスマートフォンでいつでも確認できる。2019年に3台、以後毎年3～5台導入し、現在23台導入。CAREKARTEにも連動。

② 2025年導入 エヌジェイアイ「安心ひつじα」



マットレス下に設置し、睡眠中の体動、心拍、呼吸、離床の4つを一度に計測できる機能を搭載した体動センサー、iPhone、フロアのiPadやPCで利用者のバイタル情報が一覧で見られる。CAREKARTEにも連動。2025年に89台導入。

③ 2016年導入 ケアコネクトジャパン「CAREKARTE（ケアカルテ）」



請求と介護記録のために導入。今後は、同社のハナストと連動させて介護記録を入力する。

④ 2026年導入 ケアコネクトジャパン「ハナスト」



購入は2025年。ネオスケアの段階的購入に加え、この年は安心ひつじαも購入したため、ハナストの導入自体を2026年に遅らせた。インカムで話したり、iPhoneで入力したりした介護記録がCAREKARTEに残るようになっている。

職員の方に一番効果があった機器はどれになりますか？

宮崎 ネオスケアです。導入当初は「慣れない」などの理由で職員の反応もよくありませんでしたが、今では安心感があるようで、「たくさん入れてほしい」と要望があるくらい信頼度が高いです。転倒があったときは、録画機能を使ってどういう状況で事故が起きたかを検証できるのも安心材料の1つです。

富岡 実はネオスケアを導入して、転倒の事故報告が半分以下になりました。転倒が減るということは、自ずと事故報告書を書く手間が減りますので、職員は安心感とともに働きやすくなったと思います。

肝となるネオスケア導入にあたって、どのように機器を検討しましたか？

富岡 私たちは品川区立の施設なので、基本的に品川区の補助金しか使えません。ですので当初補助金なしで購入するネオスケアの検討には、慎重に慎重を重ねました。

機器を検討したのは4社。お試してデモ機器を借り、最後の2社まで絞ったのは、ノーリツプレジジョン「Neos + Care ネオスケア」と「A. I. Viewlife (エイアイビューライフ)」でした。職員から実際に使ってみた意見を聞き、金額的な規模と使い勝手でネオスケアに決定しました。その他ですと「リコーけあマルシェ」も検討しましたが、金額が高すぎて折り合いませんでしたね。

ICT 機器導入後に施設内で職員からのハレーションは起きませんでしたか？

宮崎 実はネオスケア導入の際も、職員からは特にハレーションが起きませんでした。でも実際ハレーションが起きるとするならば、これから本格導入するハナストを作動させて音声入力介護記録を付けるときだと思います。

2025年12月にハナストのインカム音声入力の練習をしたところ、「〇〇さんの声はうまく拾ってくれるけど、私の声、全然拾ってくれないの！」や「インカムのマイクにうまい声の当て方があるのかな？」という声が上がりました。2026年度中に本格導入するまでに、うまい使い方を職員の間で見つけていきたいです。

区立の施設のため、品川区の補助金しか使えないとのこと。安価でよい機器を導入するために工夫していることはありますか？

富岡 2024年度に品川区で予算を付けてもらい、結果的に多くの機器を購入することができましたが、機器の購入はやはりお金がネックですね。平塚橋で行っているのは、企業のデモ機を積極的に導入して試すこと。安価で手に入れられる身近な携帯のアプリ、Amazonで出品されている自宅用のペット検知カメラなども検討したことがあります。その他ですと、週刊東洋経済で年2回ほど掲載される特集「すごいベンチャー100」をチェックして、よさそうな企業に連絡をして話を聞くこともありました。

今まで検討はしたけれども導入しなかった興味深い機器について教えてください

1つ目は、東洋経済を見て連絡した服薬管理システムの服やっくんです。3年前、実際に試したことがありました。2つ目は、ヘルパッド2です。センサーがにおいを捉え、AIが尿と便を検知するもので、2週間ほど使いましたが、「シートがきちんと排便・排尿に反応せず、敷く場所が難しい」という声が上がりました。導入しませんでした。その他ですと排尿検知器わかるにょんがありました。布団を開けなくてもおむつが濡れたか濡れていないかを確認される紙おむつに付ける小さなセンサーです。また、超音波センサーを使用して膀胱内の尿のたまり具合を計測するDFree（ディフリー）や、Amazonのペットや家族、店舗の見守りカメラ・Ringシリーズなども検討しました。

最後に、大きなお金が動く ICT 機器導入の課題について教えてください

富岡 導入において、いつもメーカーさんとのやり取りでトライ＆エラーしながら感じるのは、「介護職員の嗜好性やモノの考え方をメーカーさんがもっと汲んでほしい」ということです。機器は実際に使ってみると、メーカーが思ってもみなかったような使い方を職員がして、驚くような効果が出る場合があります。説明を聞いているだけで、「きっとうちの職員はこんな使い方をするだろうな」と僕は薄々感じているけれども、メーカー担当者は頭の中にはなマークが浮かんでいる。メーカーと施設側に感じ方の違いが大きくあるんです。

だから「この機器はどんな使い方ができて、どのような意味を持っているのか。こんな便利さがあるから、現場ではこのように使った方がいい」などと、きちんと施設側に翻訳して紹介できるキーパーソンが必要だと感じます。モデル施設にそのような機器を入れて、そこで試せるといいのですね。

社会福祉法人三徳会 平塚橋特別養護老人ホーム

所在地：〒142-0054 東京都品川区西中延1-2-8

電話：03-5750-3632

記録・編集：横山 由希路



平塚橋特別養護老人ホーム
ホームページ

東京ケアリーダーズが行く！

東京都高齢者福祉施設協議会の数ある会員（約1200施設・事業所）のうち、表彰や推薦など、名誉ある経験をもつ施設を紹介するコーナー。毎回「うわさ」の施設を東京ケアリーダーズが訪問し、お話を伺います。

うわさの
施設

その
41

2025年開催 第20回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉 in 東京'25」
第6分科会「日常ケアの向上」優秀賞
社会福祉法人台東区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム谷中

最後まで経口摂取にこだわり、誤嚥予防に取り組んだ20年

長期にわたり歯科医や歯科衛生士学生と協働し経口摂取の維持に取り組んだ特別養護老人ホーム谷中が「アクティブ福祉'25」で優秀賞を獲得しました。今回は、発表者である小松志帆さんと天野由貴さんにお話を伺いました。



〈取材の様子〉

右から小松志帆さん、天野由貴さん、田名部周悠さん（東京ケアリーダーズ）

——研究を始めたきっかけと、現在までの流れをお聞かせください

小松

平成14年、歯科衛生士養成校の教員の方からご利用者の口腔ケアの協力の相談を頂き口腔ボランティアの実践に至りました。

平成29年からは歯科医師による口腔カンファレンスも実施し、現在まで経口摂取を推進する活動を続けています。

——今回の研究で使用したSOAP、KTバランスチャート、歯科衛生士によるオリジナル表等の指標の導入で、どのような成果がありましたか

小松

口腔状態はその時々で変化しますが、指標により数値化や統計的比較ができるようになりました。それを基にした歯科医からの指導で口腔ケアを適宜実践しています。

——経口摂取の実現で大変だったことはありますか

小松

ご利用者の自分で食べたいという意思に対し、どこまで介助をするかが難しかったです。ご自身で食べる行動を阻害せず促せるよう、声掛けのタイミングや食器・自助具の選定で工夫しました。意思表示ができない方の支援では表情など言葉以外の意思表示や、家族からの情報などをヒントに様々なことを試しました。

——多職種および外部との連携はどのように進めましたか

天野

普段歯科医と職員が直接相談する時間はあまりないのですが、ミールラウンドや月に1回の口腔カンファレンスでの会話の中で助言をいただき、口腔状態がいかに重要かを学べる貴重な機会になり大変ありがたかったです。

——知識をしっかりと実践につなげているのが素晴らしいですね

天野

食事体勢は体幹を垂直にすることを意識して行っていました。歯科医からある程度傾けて大丈夫というアドバイスをいただきました。現場で確実に実践するために、車いすに「こ

こまで倒すよ」という目印のテープを張り付ける、ベッド上の介助では角度を明示する等、すべきことの見える化に取り組みました。

——情報共有の工夫をお聞かせください

小松

PCでワードの連絡ノートを作成し、ケア内容を共有しています。チェック後のサイン欄とコメント欄を設けて各職員が必ず見るようにしています。デジタル化により看護師や相談員も見るようになり、積極的にコメントをもらえるようになりました。

——取り組みに対するご利用者の反応はいかがですか

天野

ご利用者の口腔衛生の意識が上がり、口腔ケアがしっかりできるようになり、口臭や口腔内出血、歯肉の腫れがなくなりました。

小松

物が食べやすくなったという声もあがっています。家族からも、終末期に好きなものを食べさせてもらえたことに感謝の言葉をいただきました。

——今回の研究から、どのようなことが見えてきましたか

天野

終末期で経口摂取を望まれる方には、安全と尊厳をふまえてどこまで介助するかを判断する必要があります。その判断を適切にするために、多職種連携をして見極めていかなくてはならないと思います。

——歯科医とのミールラウンドや食事の提供方法など、とてもレベルの高い取り組みだと思います。また、多職種連携と細やかな情報共有は再現性が高く学ぶ点が数多くありました。本日はありがとうございました



車いすの目印確認の場面



右から、天野由貴さん、小松志帆さん、田名部周悠さん（東京ケアリーダーズ）

社会福祉法人台東区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム谷中

所在地：〒110-0001 東京都台東区谷中 2-17-10

電話：03-3824-1094

取材：東京都高齢者福祉施設協議会 東京ケアリーダーズ 田名部 周悠さん（うきま幸朋苑）

記録・編集：木下 聡文



特別養護老人ホーム谷中
ホームページ

その
42

2025年開催 第20回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉 in 東京'25」
第6分科会「日常ケアの向上」優秀賞

社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園

“楽しみ”の提供からみるサクセスフル・エイジング

ネイルケアサロンを通じて楽しみを提供し、活動前後のご利用者^{たかしのみや}と職員^{さわたのみお}の変化を調査した神明園が「アクティブ福祉'25」で優秀賞を獲得しました。今回は、発表者である高篠沙耶香さんと澤田美央さんにお話を伺いました。



〈取材の様子〉

右から澤田美央さん、高篠沙耶香さん、
生田目大樹さん(東京ケアリーダーズ)



ネイルケアサロンの様子

澤田

各フロアを回る形式で行っています。マニキュアは色が少ないと満足できないので、できるだけ色を多くそろえているほか、シールなども用意しています。パルスオキシメーター使用のため、片側の人差し指だけはネイルをしていません。

——サロンを研究題材にしようと思われたきっかけはありますか

澤田

マニキュアは1、2週間ではがれてしまうので、きれいを維持したいというご利用者の希望が十分に叶えられていませんでした。そこで、チームを結成し定期的に実践するようにしたところ、次第にご利用者も職員も笑顔と会話が増えるなどよい変化が見られたので、これを発表できたらと思い取り組みました。

——どのような会話が生まれましたか

高篠

ご利用者同士でネイルを見せ合う場面がみられ、他の方のネイルをうらやましがる様子もありました。次はこんな色や柄にしたいという希望を頂くこともあります。ネイルは目に入りやすいからかご利用者と職員の会話のきっかけにもなっています。

——ネイルケアサロン(以下、サロン)を見学し、ご利用者が笑顔になり、会話が増えることが目に見えてわかりました。取り組みを始めたいきっかけをお聞かせください

澤田

当施設は女性比率が高く、おしゃれに関心の高い方が多くいますので、喜んでもらえてコミュニケーションも楽しめる活動として始めました。現在の参加者は約30名です。

——サロンはどのように実施していますか

——取り組みによるご利用者の反応や変化をお聞かせください

澤田

ネイルの日を意識し楽しみにされているので、見当識による影響を及ぼしていると感じます。普段は発話が少なく食事したことを忘れてしまう重度認知症の方も、ネイルは形に残り自分の目にも入るからかサロンは記憶に残り、会話も生まれます。

——ご家族の反応はいかがでしたか

高篠

面会でご利用者がネイルを見せることがあり、ご家族が「きれいにしてくれてありがとう」と喜ばれました。施設見学に来た方がサロンのポスターを見て「こんなこともやっているんですね」と関心を持つこともあると相談員から聞いています。

——同じ美容系の活動では化粧療法がありますが、ネイルとの差はありますか？

澤田

化粧療法は喜ばれると思いますが、化粧は落とす必要があります。入浴機会は限られますし、全員がクレンジングを使えるわけでもありません。ネイルは毎回落とす必要はなく、継続して美しさを維持できます。

高篠

年齢関係なく他の方の真似をして楽しむことができるのもネイルの強みですね。

——今後研究活動を行う施設へアドバイスをお願いします

澤田

やりたいと思ったことは始めてしまうことです。毎日楽しみがある飽きない施設づくりをすることが、自然と研究活動にもつながるのではないかと思います。

——サロンを行っているときの楽しそうな雰囲気ももちろん素敵ですが、終わった後のコミュニケーションの増加、認知機能低下の防止など効果が続くことがとても良いと思います。本日はありがとうございました



施設前で

右から園長 中村正人さん、澤田美央さん、高篠沙耶香さん、生田目大樹さん(東京ケアリーダーズ)

*この記事のより詳しい内容は高齢協のホームページの「機関誌アクティブ福祉デジタル」でお読みいただけます。

<https://www.tcs.wv.ac.or.jp/bukai/kourei/activefukushi/digital/index.html>

社会福祉法人亀鶴会 特別養護老人ホーム神明園

所在地：〒205-0023 東京都羽村市神明台 4-2-2

電話：042-579-2711

取材：東京都高齢者福祉施設協議会 東京ケアリーダーズ 生田目 大樹さん(今井苑)

記録・編集：木下 聡文



特別養護老人ホーム神明園
ホームページ

教えて！外国人採用・研修・施設の取り組み

社会福祉法人 恵神会

La Storia 馬事公苑

施設長 ^{かみや}神谷 ^{けいし}啓史

はじめまして！世田谷区用賀にある特別養護老人ホーム、La Storia 馬事公苑の神谷といたします。当法人としては外国人材の採用を続けて15年ほど、私個人は約8年携わって来ました。この度は当施設での外国人材の受け入れに関する考え方を段階ごとに簡単にまとめて綴らせていただきました。外国人材の受け入れをして悩まれている、またはこれから受け入れらる法人様にとって少しでも参考になればいいと願っています！

Stage. 1 受け入れ前の心構え

一番重要です！受け入れて以降ずっとついて回る、起こりうる問題に対して、施設の根幹を支える法人、管理者、担当者等**キーマンの覚悟**に当たります。キーマン達が受け入れに対して強い信念をもって取り組めば問題が起きた時にも立ち返ることができるので、どんな考え方でも是非ベースを作ってみてください。

・介護の本質は人の手！

生産性が上がろうがDXが進もうがAIが発達しようが介護はいつの日かロボットが完全に心までケアしてくれる日がくるまでは人の力が不可欠です。人の手が足りないことは明らかにサービスとしても経営としても介護業界のマイナスとなります。外国人がいない方がいいと考える人がいることは理解できます。ですが、人が足りなくても入れない方がいいということはありません。**人数がいた方が絶対に利用者様のため**にいいです。

・いくら考えて準備しても必ず問題は起きる！

外国人にいくら理想を求めても日本人にはなりません。文化も考え方も環境もすべて違うので、細かいことはあきらめましょう。介護の質は日本人を含めて国籍にかかわらず教育で培うものです。そして彼らは日本人が学ぶべき部分もたくさん持っています。持ちつ持たれつの精神、むしろ**日本の介護を助けてもらっている意識を忘れない**こと。また、逆に法人として、日本人として譲れない部分ははっきり伝えること。そして何より、日本人だけでやっても違う形で問題が起き続けるのは一緒！

・外国人材の受け入れは通過点！

すでに外国人無しでこの国の介護は回りません。よっぽどこだわりがない限り受け入れは時間の問題で、受け入れてから当たり前前に外国人と働くことになった先には、ほぼ外国人だけで介護をする時代が来るかもしれません。**慣れるのは早いに越したことはない**し、彼らがいつまで日本に来てくれるかもわかりません。もっと先の施設介護の未来のために今のうちに経験しておくべきこと！

一部ですが、こういった話は問題があるたび何回でも出てきます。ぶれないように！

Stage. 2 受け入れ準備期間

ここで一番大事なことは、いかに多くの**スタッフを巻き込んで**受け入れについて一緒に行動できるかです。Stage. 1の周知はもちろんですが、キーマンたちの考え方だけでなく、実務となる生活環境

の準備、日本語、介護教育の内容、各種支援機関の担当者との打ち合わせ、面接契約等、現場スタッフに積極的に関わってもらえるとみんなが前向きになり、受け入れが自分事になります。まずは受け入れ実績のある近隣の法人にがっつり頼ってみてください。受け入れ法人の声、現場の日本人、外国人スタッフの声をなるべくたくさん聴いて、自法人に合ったイメージの方法を決めてそっくりそのまま合った形で始めるのが最初はおすすめです。問題は必ず起こります。でも、手探りで始めるには業者、機関、制度すべてがあまりにピンキリになっています。近隣施設のいいところ取りした真似なら早く解決ができます。とことんみんなで聞きましょう。

Stage. 3 受け入れ後定着に向けて

Stage. 1、2 がしっかりあるうえで、実際に一番大変になってくるのはここからです。現場では、日本語がうまくならない・伝わらない、働き方・休み方等仕事に対する考え方が違うなど、細かく多くの問題が起きます。Stage. 1 のキーマン信念と Stage. 2 の自分事として考えるスタッフの力がないといちいち後手後手になります。キーマンがぶれると自分事スタッフが折れます。自分事スタッフがいないとキーマンが折れます。日本人相手でも一緒です。実際に起きる問題は Stage. 3 が多くても、Stage. 1、2 に力を入れていればどうにかかります。外国人は覚悟をもって日本に来ているため、日本人ほど簡単に辞めないのです。きちんと面談を重ねて、法人、施設も足りずはあらためて改善しなければ時間が解決してくれることがほとんどです。また必要最小限でも受け入れを続ければ、先輩が必ず後輩を大事にしてくれます。そこは本当に心から自分事になってくれていて、とてもいい長所です。

受け入れに対する取り組みや体制、苦労話などの細かい具体的な案件はどこに行っても尽きないためすぐに手に入りますが、受け入れを実際に行う人たちにベースがないとうまくいきません。私も常に失敗、改善をしてきて今があります。これからキーマンとなる皆様もどうかなるべく多くの人を頼って、ベースを作って外国人材と一緒にいい介護を作っていっていただきたいと願っています。



▲インドネシア（バリ）の送出機関兼日本語学校訪問時の写真（前列右から2人目が神谷施設長）

教えて！あなたの施設の職員の心の健康

施設の衛生管理者が取り組んでいること **その2**

介護現場で、実際に「メンタル面で不調」になった職員に対して、施設の「衛生管理者がどのように対応しているか」について紹介します。

社会福祉法人大三島育徳会 特別養護老人ホーム博水の郷 衛生管理者・看護師

1 継続面談について

- ・少なくとも、月に一度の面談を行い、状況を把握している。
- ・業務の遂行状況の確認。医師の診断をもとに、管理職と看護師・衛生管理者が業務の可否を検討する。
- ・生活状況を本人から聞き取る。

2 復帰プログラムの状況共有について

- ・医師の診断に基づき、本人の意向を確認。
- ・管理職とともに、本人の体調と、復帰時期を共有し、復帰プログラムを作成。
- ・プログラムの評価と修正。

3 休職中職員の状況共有について

- ・プライバシーに配慮した情報共有範囲の限定。
- ・連絡窓口の一本化。
- ・職員の状況を鑑み職場環境の改善をする。

社会福祉法人台東区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム谷中 衛生管理者・保健師

1 継続面談について

- ・定期的に本人の状況を確認し、職場復帰に向けたアプローチを行う。面談の希望があれば即対応し、衛生管理者からも声をかけている。
- ・必要に応じて安全衛生委員会のメンバーで役割分担をして対応している。

2 復帰プログラムの状況共有について

- ・長期間休職して復帰プログラムが必要な場合は、産業医と相談し安全衛生委員会で助言を受けている。
- ・復帰プログラム実施後、産業医と状況共有し評価。評価を基に本人と面談。
- ・法人本部と状況を共有するために、法人本部も一緒に面談等を実施している。

3 休職中職員の状況共有について

- ・休職中職員の状況については、安全衛生委員会で共有している。
- ・法人本部とも情報を共有し、施設に言いにくいことは法人の方に話せる場を設定する。

高齢協 SNS 戦略 !!

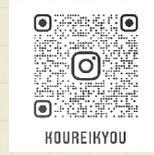
2025年 高齢協 Instagram、Facebook 閲覧数トップ3

高齢協の SNS はご覧いただいていますか？昨年、よく見られた記事をご紹介します。

日々、会員施設の情報や委員会等の報告について、更新しています。ほかの SNS とも合わせて、ぜひフォローや「いいね！」してください！各施設からの投稿もお待ちしております。

高齢協 Instagram▼

高齢協 Facebook▼



Instagram

第1位



願い事プロジェクト～結婚披露宴に参列する～「6月に娘が結婚するんです。できれば母にも参列してほしい」そんなご家族の願いを、ひのでホームで形にしました。

第2位



8月22日、高齢協のデジタル推進委員会主催で当施設の見学会が行われました。

第3位



ひのでホームの夏はイベント尽くし！この夏、ひのでホームでは、季節を感じる楽しいイベントをたくさん開催しました！

Facebook

第1位



災害対策検討委員会にて、業務継続計画の実効性を高める HUG 及び KIZUKI のファシリテーター養成研修を開催しました。

第2位



機関誌「アクティブ福祉第61号」取材の様子

第3位



「浅川ホームバーベキュー大会」養護老人ホーム浅川ホームでは、自立支援の一環としてバーベキュー大会を開催しました。

令和8年度 機関誌「アクティブ福祉」読者モニター募集!!

高齢協の取り組み等について情報を届ける紙面づくりにご協力いただく方を募集いたします。

●依頼内容

発行の都度、機関誌に関する客観的なご意見やご感想を伺います。WEB上の回答フォームから入力いただけます。(入力必要時間：15分程度)

(1) 依頼回数 令和8年度内 全4回(6月・8月・12月・2月) 予定

(2) 対象 東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 会員施設・事業所 職員 20名

(3) 謝礼 1回あたりクオカード1,000円分

●応募方法(次のいずれかの方法)

(1) 右記二次元コードから応募フォームに直接アクセス

<https://form.run/@kourei-tcsw-kCdpU3VrsA7zH0LCcXft>

(2) 東京都高齢者福祉施設協議会ウェブサイト トップページから
トップページ→「高齢協の広報メディア」を
クリック→応募フォーム URL より入力

●応募締切 令和8年3月18日(水)



高齢協公式 X で #うちのどほん自慢 募集中!

高齢者福祉施設・事業所で、ご利用者の方々にどのようなお食事を提供しているのか、どのような配慮をしているかなど、広く発信することを目的に、各施設・事業所で提供しているお食事の写真を募集しています。

ご応募いただいたものは、内容に問題がなければ随時 X にアップさせていただきます。

ぜひ高齢協 X をフォローの上、お気軽にご参加ください!

▼応募フォームはこちら

<https://form.run/@kourei-tcsw-pRVjlq1mQQEdRsESBID9>



専門委員会リレートーク

第31回 制度検討委員会

制度検討委員会 委員長
社会福祉法人博仁会 和楽ホーム 施設長
みやざわ よしひろ
宮澤 良浩

■活動の内容

制度検討委員会では、年間6回の委員会をとおして、介護保険制度上の諸問題における実態調査や勉強会等を実施しています。その中で見えてくる大都市東京としての諸課題について分析し、高齢者施策に関する国、東京都の制度、政策、自治体の取り組みなどに対する要望、提言活動に資する活動をしています。

■今年度の活動

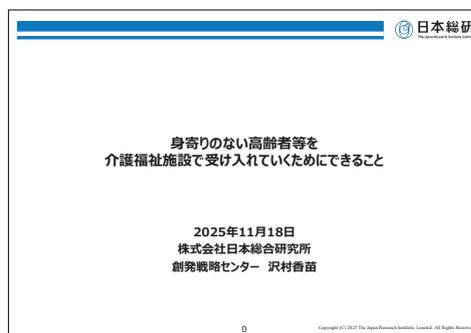
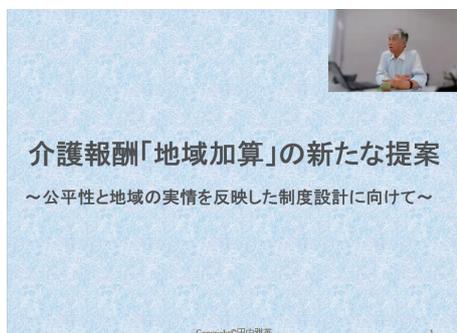
令和7年度の本委員会の活動は以下の取り組みを実施しました。

①「特別養護老人ホーム入所（居）待機者等に関する実態調査」の実施及び考察

②介護保険制度下における現状の課題や次期改定に向けた勉強会の開催

第1回 テーマ「介護報酬・地域加算の新たな提案」

第2回 テーマ「身寄りのない高齢者等を介護福祉施設で受け入れていくためにできること」



■予定している取り組み

来年度も引き続き「特養養護老人ホーム基礎調査」より「東京都内特別養護老人ホーム入所（居）待機者に関する実態調査」の実施、都内特別養護老人ホームの待機者像の実態把握や待機者減少に於ける背景、都内に於ける施設整備の進展の影響などについて、検討、分析の実施を予定しています。また、小規模特養の経営実態や運営環境が加速度を増し、厳しい現状を踏まえ、実態把握と改善に資する取り組みの検討を予定しています。さらに、介護保険制度の理解を深める為、委員会内で独自の勉強会を開催し、制度上の課題などの検証を含め、高齢者施策に関する要望、提言活動につなげていきます。



待機者に関する実態調査結果▶



「どんな人も地域社会で 幸福に暮らす権利があります。」

社会福祉法人聖母会聖母ホーム

副施設長 おたに ようこ 尾谷 洋子

老人ホームという名称から一般の方がイメージされるのは特別養護老人ホームではないでしょうか。養護老人ホームの数は少なく、その内容について知ることは難しいと思います。しかし緊急に対応できる救済施設としてはなくてはならない存在です。

■カトリック施設としての聖母ホーム

当ホームは全国にあるカトリック高齢者施設の一つですが、カトリックの養護老人ホームは全国に7か所しかありません。社会福祉制度を国家が確立するまでは貧しい人々の救済を一部の篤志家の人が私財を投じて行ってきた歴史があります。またキリスト教や仏教も貢献してきました。

聖母ホームは大正11年に山本千代子氏が主宰するカトリック婦人会あけの星会が都内大森で貧しい老女を收容しそれを機に養老院を創設し「聖心聖マルグリット養老院」と命名。それが聖母ホームの起源となっています。

その後、幾多の変遷を経て現在の新宿区に立地しています。50名の定員に対し全室個室、敷地内には同じ法人の聖母病院があります。利用者には100歳を超えた方が4名おり本当に長寿社会と実感します。80代90代の利用者でもその会話や立ち振る舞いに高齢者を感じさせない方もいて感心させられます。

しかし数年前までは利用者はもっとお元気で陶芸クラブ、書道クラブなどに参加され活発に行動されていたようでした。立派な作品も残されています。

しかしコロナ禍となりクラブ活動は中止。ボランティアの訪問も許可にならない状況が続く中で利用者は加齢とともにADLも低下の傾向になりました。

最近になりやっとボランティアの訪問が再開できるようになりほっとしています。措置を通して入居される方には若いころから働き詰めで晩年を迎えられたり、予期せずに生活困窮に陥ったり、家族関係に問題があったりなどの様々な背景を持っていらっしゃる方がいます。こういった方々にこそ晩年は穏やかで安心した環境のなかでその人なりに自立し地域社会のなかで生活しているという実感を持てるような支援ができることが目標です。利用者を支えるのは支援員の大切な使命だと思います。支援員の笑顔や温かな言葉かけは本当に大切です。しかし、養護も介護度が上がり支援員の手が足りなくなっているのも現実です。

人手不足を解消し良い人材を育てるためにも、待遇の改善や施設運営に直結する措置費改善の適正化を行政にぜひ検討して頂きたい所存です。



▲コーヒーショップ



▲マリア様とゆり



聖母ホーム
ホームページ

介護＝笑顔を地域に広げよう！

板橋区 都市型軽費老人ホーム オーネスト成増
生活相談員 ^{はやかわ}早川 ^{しの}志野

■夏の夜空と笑顔のつながり

私たちオーネスト成増では毎年開催される板橋花火大会の鑑賞会を行っております。昨年も施設屋上にて入居者の皆様とともに夜の花火を眺め、同じ空の下で夏を感じるひとときとなりました。夜空に大きく開く花火が打ち上がるたびに、拍手や歓声が聞かれ、皆さまの表情も自然と和らいでいきました。

■学生ボランティアとの交流

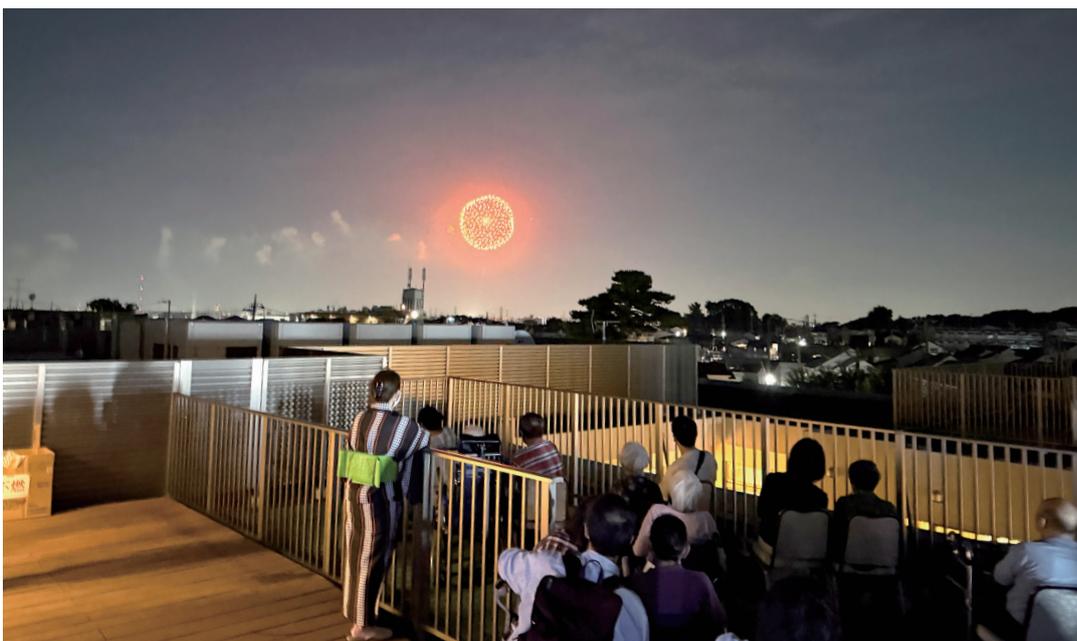
学生ボランティアの皆さんにソフトクリーム、かき氷、ジュース等を提供する屋台のお手伝いをしていただきながら世代を超えた交流が生まれました。「若い人と一緒に観ると楽しい」「元気をもらえる」といった声も聞かれ、花火大会をきっかけにあたたかなふれあいの時間が広がりました。

■安心して季節を楽しむ取り組み

外出が難しい方でも、屋上で楽しめる地域の行事を身近に感じられるこの取り組みは、安心・安全に季節を楽しんでいただく貴重な機会となっております。

■これからも地域とともに

今後も地域や学生ボランティアの皆さまと連携しながら、入居者一人ひとりが季節を感じ笑顔で過ごせる行事を継続していき、人と人とのつながりを大切にして、心豊かな暮らしを支えていきます。



▲板橋花火大会鑑賞会の様子

社会福祉法人紫水会 オーネスト成増
ホームページ▶



介護から広がる小さな笑顔が やがて大きな笑顔に

社会福祉法人 村山福祉会
伊奈平苑高齢者在宅サービスセンター
相談員 **末田 健士**



■小さな達成感がやがて大きな笑顔に

介護の現場で私たちが大切にしているのは「笑顔」です。デイサービスは単なる生活支援の場ではなく、ご利用者の方々が自分らしく過ごし、地域に笑顔を広げていく拠点でありたいと考えています。

そのために、私たちのデイサービスでは普段より長距離歩行訓練を取り入れています。歩数を目標として設定し、達成された方には「高尾山に登った」「府中の大國魂神社まで歩いた」といったイメージを楽しんでいただけるよう、現地の写真とご本人の写真を合成した記念写真をお渡ししています。努力の成果が形となって残ることで、達成感と笑顔が自然に生まれ、次の挑戦への意欲にもつながっています。



目指せ!! 高尾山 登頂

令和 年 月 日 開始
名前 _____

伊奈平苑に来られた時に合計20,000歩歩いて高尾山の山頂を目指しましょう

登頂 (599M)	合計 20,000 歩
8 合目 (479M)	合計 16,000 歩
5 合目 (300M)	合計 10,000 歩
3 合目 (180M)	合計 6,000 歩

■地域と共に皆さんの笑顔を広げたい



また、定期的に外出支援を行い、近所のショッピングモールや喫茶店などへ出かけています。仲間と談笑しながら美味しい食事やケーキを楽しむ時間は、心身のリフレッシュだけでなく、地域社会とのつながりを感じる大切な機会です。外の空気に触れ、日常の枠を超えた交流を持つことで、ご利用者の方々の笑顔はさらに広がります。また、実際にご利用者が外に出る事で地域の方からお声を掛けて頂く事もありました。

私たち職員もまた、その笑顔に励まされ、介護の仕事に誇りを持つことができます。「介護＝笑顔」という価値観を地域に広げることは、ご利用者だけでなく家族や地域の人々に安心と活力を届けることにつながります。これからも、歩行訓練や外出支援を通じて、一人ひとりの笑顔を育み、地域全体に温かい輪を広げていきたいと考えています。

社会福祉法人 村山福祉会 伊奈平苑
ホームページ▶



東京ケアリーダーズ活動紹介

社会福祉法人アゼリア会 あかね苑
東京ケアリーダーズ しばやま れい
芝山 玲

テーマ 東京ケアリーダーズ一年生



▲日本福祉教育専門学校 出張授業

みなさんこんにちは、初めまして。先輩からバトンを受け取り、今年度より東京ケアリーダーズのメンバーとなりました、芝山です。

ケアリーダーズ存在はアクティブ福祉で知ってはいましたが、まさか自分がその一員になるとは思ってもいませんでした。バトンを受け取ったからには、介護の魅力を一人でも多くの方に伝え、知っていただけるよう活動していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、私たち東京ケアリーダーズは、今年度は大きな活動を二つ行いました。

一つ目は、「**アクティブ福祉 in 東京 '25**」でのケアトークです。

私にとって初めてのケアリーダーズとしての活動で、とても緊張したのを覚えています。同業・他業種・学生さんなど、さまざまな方とお話する中で多くの刺激を受けました。同時に、これまでの経験で得たものを、少しでも届けられたのではないかと感じています。

二つ目は、**日本福祉教育専門学校での出張授業**です。

ご縁があり貴重な機会をいただき、ケアリーダーズとしても初めての試みとなりました。私たちは「**教える**」のではなく、「**一緒に学ぶ**」という同じ目線に立つことを大切にしています。事前にテーマをいただき、知識や経験を出し合いながら内容を組み立てましたが、ゼロから作り上げることの難しさを実感しました。

実際の授業では、反省点や新たな発見が多くあり、都度メンバーで共有しながら次につなげていきました。学生さんからも多くの意見や刺激をいただき、私たちにとっても大きな学びとなりました。準備は大変でしたが、それ以上に達成感のある活動でした。

ありがたいことに、来年度も出張授業を行う予定です。さらにパワーアップした内容をお届けできるよう、取り組んでいきたいと思えます。

人材育成研修委員会の取り組み ～現場リーダーを育てる研修体系の深化～

社会福祉法人サンフレンズ
特別養護老人ホーム上井草園
園長 ひしき 菱木 こうじ 幸治



■ 1. リーダー人材の育成を支える委員会の役割

東京都高齢者福祉施設協議会・人材育成研修委員会では、「人材の確保・育成・定着」を最重要課題と位置づけ、現場で中心的役割を担う職員の成長を支える研修体系を整備しています。令和7年度も、組織の未来を担うリーダー育成に向け、実践的で学びの深い研修運営を推進してきました。

■ 2. 17年の歴史を持つ「チームマネジメント研修」

17年間で延べ700名以上が受講してきた本研修は、スタートアップ・フォローアップ・グレードアップの三段階に、講師との個別面談を組み合わせる体系的な構成です。

研修の柱は「リーダーの三つの基軸」(①リーダーシップ、②問題解決力、③部下育成力)。加えて、“訴求力(相手の心を動かし行動を促す力)”の強化を重視し、実践事例を通じて体感的に学ぶ内容となっています。

対面形式による受講者同士の交流は、学びを深めるだけでなく“光景として記憶に残る学び”を生み、高い満足度と多くの気づきをもたらしています。

■ 3. 現場の中心を担う人材を育てる「中堅職員スキルアップ研修」

中堅層を対象とした本研修では、「現場でやりきる実践者」としての自覚を高めることを目的に、講義に加え、事例研究やグループワークを通して課題解決力・コミュニケーション力の向上を図っています。

参加者アンケートでは、「中核職員としての役割が明確になった」「他施設の意見交換が刺激になった」など、多くの肯定的な声が寄せられています。

■ 4. 令和8年度に向けた研修体系の再構築

委員会では現在、

- 対象者層の変化を踏まえた研修内容の見直し
- チームマネジメント研修テキストの体系化
- オンライン併用型研修の検討

など、次年度に向けた改善を進めています。

今後も、介護現場を支えるリーダー育成の中核として、質の高い研修の企画・運営に取り組んでまいります。

福祉・介護の魅力にまつわるなんでもエピソード

特別養護老人ホーム シャローム東久留米 機能訓練指導員 たのうえ ひろつぐ 田上 泰嗣

みんなの笑顔の為に

私が介護の世界に飛び込んでから10年が経ちました。それまでは整形外科や接骨院で骨折や捻挫など怪我の治療にかかわっていたので、リハビリ主体となる機能訓練指導員は未知の世界でした。

デイサービス勤務を経て定員90名の特養に異動。肩書はデイの時と同様ですが現場が変わると業務内容も大きく変わり、よりご利用者の生活背景やケアプランを意識するようになりました。

これまでの医療現場で培ったスキルは自分の強みなのだと思いますが、ご利用者一人一人が様々な課題を抱えており、多様なケースに対応していくうちに自分の経験を生かしていたのではなく、ただ視野が狭かっただけなのだと気付きました。

多様な職種が共存する特養の環境で勤務する中で、介護、看護、栄養、ケアマネ、相談員とともに歩みつつも機能訓練指導員として独自の目線をご利用者に寄り添う事で、ご利用者の生活をより良く、笑顔にしていける力が機能訓練指導員にはあると感じました。

ご利用者やご家族に寄り添い、仲間である職員にも寄り添い、よりよい環境作りがしたい。例えば、ご利用者がより安楽で安全に過ごしやすく、介助側にとっても負担が少なく介助しやすい車いすのシーティングなど、機能訓練指導員の仕事の中で純粋な機能向上への目線は重要です。ご利用者が心身ともに少しでも穏やかで自然に、そして笑顔で過ごせるように、機能訓練が何か力添えできる事はないかと探す姿勢を無くさないように常に心がけています。

自分を含め笑顔が一つでも増えるように、この仕事が誰かの笑顔に繋がるように、これからも想いを込めて励んでいきたいと思えます。



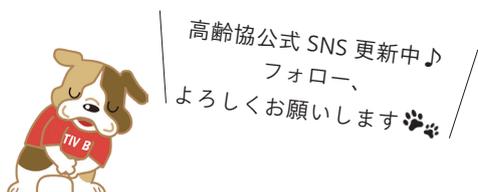
読者モニターからのご意見（一部抜粋） - 63号 -

- ICT機器の導入に焦点を当てたインタビューには、すぐにも真似できそうなアイデアが載っていました。（生産性向上の取り組み）
- アクティブ福祉の受賞は、実際に会場で聞く機会がないと知る機会が少ないかと思えます。こうした記事により、背景などを含め、内容を知ることができて良かった。（うわさの施設）
- 外国人の採用は、採用してみないとわからないことも多いので、体験談はとても参考になりました。（教えて！外国人採用）
- 衛生管理者が何をしているのか知らない職員も多いと思えます。職場の身近な存在で相談できるのは心強いと思うので、広まればいいなと思いました。（心の健康）
- 昔やっていたことが、施設入所後も継続してできるようになるのは素晴らしいことだと思いました。（養護分科会トピックス）
- 話すことでつながっている実感が持てることは素敵なことだと思いました。（東京ケアリーダーズ活動紹介）
- ▶いただいたご意見はよりよい機関誌発行のために活かしてまいります。

編集後記

介護を取り巻く環境は日々変化していますが、「人を大切に思う気持ち」はかわりありません。東京の介護現場には、経験を重ねてきた人の知恵と、これから担う人の新しい視点が共にあります。この広報誌が介護の奥深さや可能性を伝え、東京の介護を支える様々な制度や取り組みとともに、現場で生まれる小さな感動をお伝えしております。次の一步を踏み出す誰かの背中をそっと押す存在になれば幸いです。

社会福祉法人 一誠会
八王子市高齢者在宅サービスセンター中野
シルバーピア中野
センター長 大川 富美



Facebook



Instagram



高齡協公式
@TokyoKourei



高齡協会長
@koureikyoku



東社協
東京都高齢者
福祉施設協議会

